

不登校・引きこもり傾向のある 10代～20代(思春期世代)の居場所

実施団体：フリースペース十色

*2018年5月25日に開所した不登校、引きこもり傾向のある10代～20代（思春期世代）の若者の居場所です。

①開所日時：毎週火曜日（10時～12時）と木曜日（10時～16時）

②安心・安全な居場所であることを根幹に据え、相談支援（当事者・保護者）、学習支援、医療や関係機関への同行、支援会議参加、就労支援などを行っています。

③木曜日のお昼は、ご飯を炊き、お味噌汁とおかず一品を作って、その日来られた方と一緒に昼食を取っています。

炊き込みご飯（五目ご飯・とうもろこしご飯など）の時にはとても喜んで下さり、普段あまりご飯を食べない方も沢山おかわりをされるので、炊き込みご飯の機会を多くもちました。地域等の方から不定期で頂野菜を頂くので、豚肉・鶏肉・豆腐などを購入し、おかずも提供できました。

④時には、一緒にお菓子（炊飯器で出来るケーキ、ホットプレートを使ってお豆腐団子など）も作りました。

⑤カレー会を催したり、クリスマスにはケーキを購入してクリスマス会を行いました。

⑥ご飯やお味噌汁は多めに作って、持ち帰って頂いたり、来られなかった方の自宅にお届けしました。

⑦地域の方が、野菜や果物、パン、レトルト食品などを届けて下さるので、持ち帰って頂いたり、来られなかった方のご自宅にお届けしました。

⑧利用者さんが、積極的に昼食の準備、片付け等を手伝って下さるので、負担がかかり過ぎないように配慮しながら、協力し合っています。

⑨発達や軽度知的障害等の課題を抱えている方が複数人におり、コミュニケーションを取ることに少し困難さがあるため、スタッフが間に入って会話が成り立つよう、心掛けています

⑩障害をお持ちのため、理解や判断をする力が健常の方に比べて低いこともあり、犯罪被害に遭ってしまうこともあります。そのため、開所日時以外で、学校、松本市こども福祉課、松本市障害福祉課、松本市生活福祉課、松本児童相談所、障害者生活・相談支や、就労支援事業所、ハローワーク、病院、就労移行支援事業所等と連携し、同行支援、支援会議への参加等も行いました。他に必要に応じて、弁護士への相談も同行支援しました。

⑨利用者さんの得意なこと（折り紙）を教えて頂いたり、トランプ、ウノなど楽しく遊ぶ時間を大切にしました。

*折り紙などの作品は十色の玄関や入口、部屋に飾っています。

⑩困窮家庭で育ち、中学生の頃からヤングケアラーとして祖父母の面倒を見ていた若者が、昨年秋にアパートを借り、自立することが出来ました。

1人暮らしをしたいという本人の願いが叶うためには必須である祖父母の経済的自立、介護サービス利用に繋げるまでを、行政の担当課、診療所の医師、弁護士さん等と連携しながら丁寧に進めました。（祖父母の行政また受診への同行、法テラスの利用手続き等、必要書類を揃えるところから十色がお手伝いをしました）

*このような間を繋ぐ作業が行政ではできないとのことで、困窮、困難を抱えた多くの方が困っているのかもしれないと感じました。

現在、その若者は、自炊をし、金銭管理、服薬管理をしながらパートで頑張って仕事をしています。表情も明るくなり、素直で意思もしっかり伝えられ、SOSも出せるため、パート先でも皆さんに良くして頂いているとのことで、とても嬉しく思っています。

⑪知的に困難さを変えた若者が、今までは、スタッフに相談することなく、自分のやりたいことを直ぐに行動に移し、結果傷ついてしまうということを繰り返していたのですが、最近は、行動する前に相談をしてくれるようになりました。必要な過程を経ながら、望む方向に進めていく力がついたことがとても嬉しく思います。

⑬入院中の若者が、病院側の勧めにより、自立準備のために十色に通って来ていますが、その若者も、様々な機関、人の力を借りながらGH入所という自立に向かって一歩動き出しています。

⑭2月末に、十色を卒業した若者二人が、何年かぶりに訪ねてくれました。「あの頃通って来ていた〇〇さんはどうしてる？」と幾人かの名前を出してスタッフに尋ねてくれる姿は、別々の部屋で過ごし、あまり接点のない人達であったにもかかわらず、懐かしそうであり、どこかに十色の仲間という意識があるのだろうか、ほっこりとした気持ちになりました。

十色を卒業して何年か経っても「十色はいつでも帰れる居場所」として、若者たちに捉えて頂けていることを嬉しく思いました。

⑮また、県外の学校に進学が決まった若者が、保護者の方と報告に来てくれたりと、十色が通過点となり、夫々の道を見つけて進んでいっていることに感慨深いものがありました。

夫々の若者が、スタッフとの信頼関係を築き、このような力をつけるためには何年もの時間がかかっています。

改めて、若者の持つ力が醸成するまで、彼らを信じゆっくり焦らず待つ大切さを感じています。